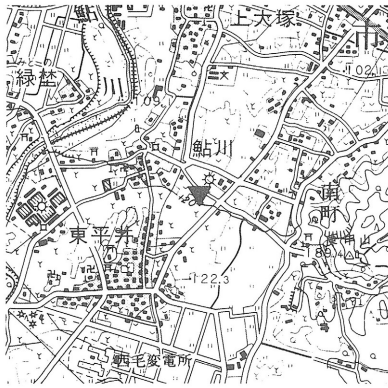


群馬・薬師遺跡^{やくし}

- 1 所在地 群馬県藤岡市鮎川字薬師
- 2 調査期間 一九九六年(平8)三月～十一月
- 3 発掘機関 藤岡市教育委員会・山武考古学研究所
- 4 調査担当者 志村 哲・長谷川一郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(高崎)

薬師遺跡は藤岡市街地の南西約4kmに位置し、藤岡台地の扇頂部に付近にあたる。調査区は幅二四m長さ五〇mで、北側は東西に走る伝鎌倉街道に接している。調査の結果、幅約七mで両側に側溝をもつ鎌倉街道と考えられる道路遺構、及びこれに直交する土橋状の入口をもつ長辺約六〇m短辺約三五mの方形区画を確認した。この区画は三重の溝に囲まれ、一辺二〇・四m

の中央区画内からは、井戸一基、火葬跡や土壙墓四六基などの墓地、掘立柱建物二五棟など、中世を主体とする多数の遺構を検出した。この他、平安時代の住居跡五軒も確認している。

今回報告する柿経は、この区画内の井戸底面の湧水付近から約四〇〇点出土した。井戸は長径四・七m短径四・二m深さ三・六mで、柿経以外では、人骨や「曆心」(一三三八～一三四二)銘の板碑、「文明五年」(一四七三)銘の五輪塔、常滑甕、内耳鍋、火鉢、播り鉢、瓦、石臼、木製の櫛・柱材、モモ・スモモ・センダンの種子など、多数の遺物が多量の礫に混じって出土している。

柿経は幅一・四cmの極めて薄い木片に書かれている。墨書は漢字と梵字に大別され、前者が経文、後者が種子と考えられる。経文は断片的ではあるが、共通した文言が多くみられ、理趣経の文言を確認している。両面写経である点、群馬県吾妻郡草津町白根山湯釜の事例に幅・字配り・木取りなどが類似している点から、一四世紀から一五世紀に位置付けられる柿経である。ここではまとまった文言の確認できた代表的なもののみを紹介する。

8 木簡の积文・内容

- (1) 輪般若理趣所謂金剛平等則 (89)×14×0.5 081
- (2) 輸入義平等則入大菩薩 (68)×14×0.5 081

(3) 特薄伽梵一切如来入大輪如来 (93)×14×0.5 081

(4) 平等則入如法輸入一切葉平等 (86)×14×0.5 081

(5) □入一切法 (26)×13×0.5 081

(1)~(5)は理趣經を墨書した柿経である。このほか、「一切平等」「理趣」「金剛印」「雜密」「一切如来」などの断片的な経文がある。なお、釈読にあたっては東京国立博物館の時枝務氏のご教示を得た。

9 関係文献

藤岡市教育委員会『F二八a東平井中道B遺跡 F二八b葉師遺

跡』(一九九八年) (志村 哲)

輪般若經取照謂金剛平等則 (1)

輪入義平等則入大葉 (2) 入一切法 (5)

特薄伽梵一切如来入大輪如 (3)

平等則入如法輸入一切葉平等 (4)